

## 放射 EMI 測定可能下限ノイズレベルとアンテナゲインの関係

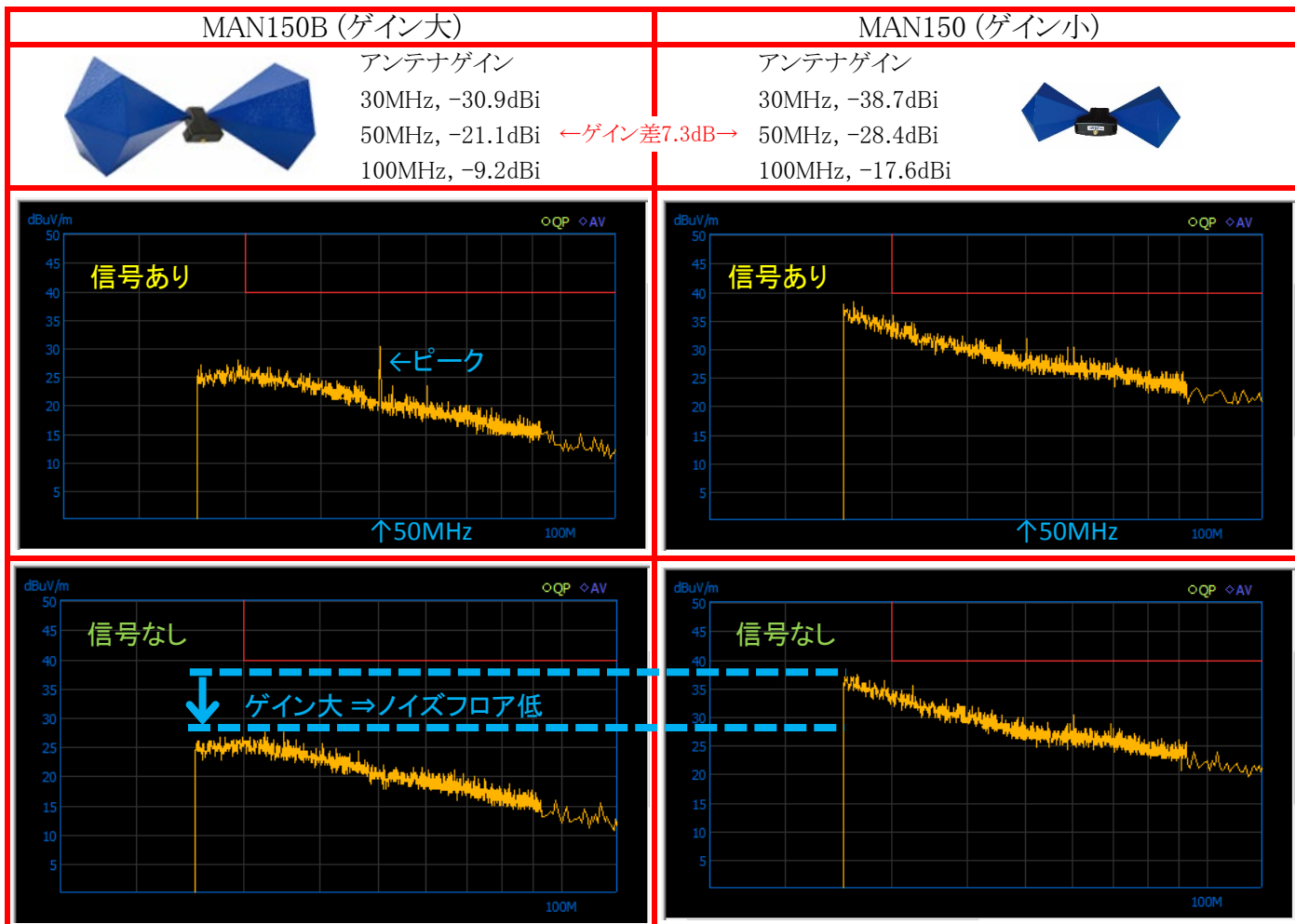
◇放射EMI測定ではゲインの大きいアンテナを使用することでより低いレベルのノイズが測定可能です。

[アプリケーション ~\*Application\*~]

ゲインの大きいアンテナを使用することで、放射EMI(エミッション)測定でより低いレベルのノイズを測定できます。

[ソリューション ~\*Solution\*~]

ゲインの異なるアンテナMAN150BとMAN150の補正值で、EMI用3.3GHzシグナルアナライザMSA538E+EMI用PCソフトウェアMAS530での測定を行った例を示します。50MHzの微弱なノイズレベルの信号を入力して、ピークが確認できるかを比較しています(上段)。ノイズフロアを比較するために信号入力なしでの測定結果も示します(下段)。



☆MAN150B(ゲイン大)では、ノイズフロアが低いため、はっきりと50MHzのピークが確認できます。

[システム構成例・価格]

・パイクニカルアンテナ MAN150	578,000 円
・MAN150用スタンド	62,000 円
・EMI用3.3GHzシグナルアナライザ <sup>+</sup> MSA538E	889,000 円
・同軸ケーブル(SMAP/SMAP 4m) MC203	57,000 円
・変換アダプタ(NP/SMAJ) MA306	12,500 円
・EMI用PCソフトウェア MAS530	98,000 円
・USBケーブル MI400	3,500 円
計	1,700,000 円



※価格は全て消費税別表記です。

※詳細は弊社営業担当までお問合せ下さい。

2022/6